

のびのび楽習塾

初めてのボランティア活動を通して

工学部 2年 唐海鑫

目 次

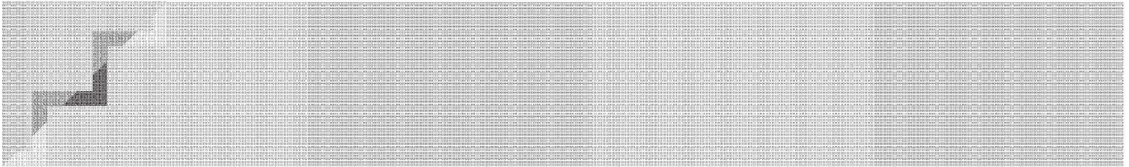
初めてのボランティア活動を通して 工学部 2年 唐海鑫
「のびのび」のまなび 経済学部 3年 平木松治
「のびのび楽習塾」で感じたこと 経済学部 3年 石川千尋
「のびのび楽習塾」を通して感じる 経済学部 3年 佐藤雄大
「のびのび」での活動で感じたこと 工学部 3年 平川将也
「のびのび楽習塾」で学んだこと 法学部 3年 崎井優太
学校ボランティア、はじめました 外国語学部 4年 伊奈沙織
「のびのび」で大切にしていること 工学部 4年 西尾真由子
意識すること 経済学部 4年 津輕範行
私にできること 外国語学部 4年 伊藤伎恵
より良い活動を目指して 外国語学研究科 1年 佐藤陽子
「ふり返し」を大切に 外国語学研究科 2年 鈴木恵介
成長し続けること スタッフ 中島慎介

私は留学生として今年の3月からのびのび楽習塾で活動を始めもう3ヶ月が経ちました。初めて子どもを教えるときは非常に不安でしたが、卒業した先輩から、対応する子どもについていろいろな情報をいただき、自分もたくさんことを学びました。このように子どもと一緒に成長できるボランティア活動は、私にとって本当に大切な経験になりました。

この活動は私が想像するよりとても難しいです。私が今担当している子どもは日本語と中国語の二つとも能力は十分ではないと思います。しかし、一番くるしいことは、この子どもは自分のことをあまり話さないで、コミュニケーションが取りにくいことです。勉強する気持ちも少なく、人とコミュニケーションする能力も十分ではないと思います。笑いがあって、わかりやすい授業はどうするか、自信をだんだんに持てるようにするにはどうするか、私は毎回の活動の前にととても頭を使います。しかし、毎回の活動後のメンバーたちとの交流会で、子どもたちの情報を共有し、当日大変なことを報告すると、皆はいろいろと協力して対応してくれます。ほかのメンバー達から、自分と違う考え方や教え方を学ぶことができるようになります。

この活動を始めてから、私自身まだまだ学ぶことがたくさんあるという気がします。これからも積極的に活動に参加したいと思います。





「のびのび」のまなび

経済学部 3年 平木松治

私のがのびのび楽習塾に参加してから1年が経ちました。はじめのうちは、なにもわからなかったけれど、のびのび楽習塾に参加している中で気づいたこと、心にかけていることがあります。

まず気づいたことは、子どもは人をよく見ているなということです。初めて一緒に授業をやっても、1回でその人がどういう人かを見抜いてしまいます。そのため、担当する学生によって授業中の態度が違う場合があります。それが良い方向に働く場合と、悪い方向に働く場合があるなど感じました。

さらに私が心にかけていることは、座る位置です。のびのび楽習塾では、机を4つくっつけて生徒1人に対して学生が1人～2人ついて授業をします。私は授業をするときに生徒と対面で座っていました。対面で座っていると生徒の表情がよく見えるので、授業中にわからないところや理解が微妙なところなどの反応が見えやすく、いいのかなと思っていました。しかし正面で座っていると、ホワイトボードなどを使って計算や漢字の説明をする時、ボードの向きが反対になってしまうので生徒から見えにくいし、計算過程や書き順がわかりにくくなってしまいます。したがって、数学や国語の授業をやるときには特に、生徒の横に座って計算の手順や漢字の書き順などが見えやすいようにしています。

また、のびのび楽習塾に来ている子どもの中には学校にあまりなじめていない子どももいます。そのような子どもを学校でなじめるように働きかけることは難しいので、のびのび楽習塾に来ている子どもや学生とコミュニケーションをとれるような場になればと思っています。のびのび楽習塾にはおやつの時間があり、みんなが集まってお菓子を食べたりします。その時間を使って子どもたちができるだけ多くの人と話せるように間に入り、みんなをつなげていきたいと思っています。



「のびのび楽習塾」で感じたこと

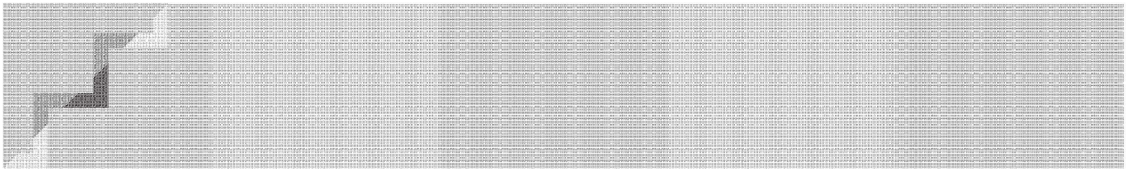
経済学部 3年 石川千尋

私のがのびのび楽習塾に参加して二か月が経過しました。のびのび楽習塾に参加する前は、外国にルーツのある子供たちに、ちゃんと教えることができるのかなどの不安がありましたが、実際に参加してみるとみんな良い子ばかりだったので安心しました。教えている学生たちもまじめな方が多く、彼らが誠実に生徒と向き合っている姿をみることは、わたしにとってとても勉強になります。そして、のびのび楽習塾に参加することで、私の足りないことに気付くこともできました。その中でも、生徒にたいして相槌をうつときに感情を込めることや、話すときに生徒の意見をしっかりと聞くことは、とくに大切であると感じました。私はもともと会話をする際に感情をこめて受け答えをすることが苦手で、実際に思っていることを言葉に乗せて話すことがあまりうまくできません。日常会話では、言葉に感情をこめなくてもなんとかなりますが、生徒と対面して学習を行っているときは、それではうまく教えることができません。したがって、これからののびのび楽習塾で意識しながら改善していければ良いなと思います。

のびのび楽習塾に参加するようになり、最近では生徒に教えるうえで心にかけていることがいくつかあります。

心にかけていることのひとつとしては、無理に急がないことです。ある日の、のびのび楽習塾の活動で、数学の問題の一目目がどうしても理解できなかった生徒がいました。私も数学が苦手なのですごくわかるのですが、数学という教科は初めてでつまずくと後々の問題が全く解けなくなります。のびのび楽習塾は学校と違い、個別学習で活動を行っているので、勉強をしているときにわからないことがあると、生徒に合わせて時間配分を変えられます。その利点を生かして、その日は生徒に一時間かけて一問の問題の解き方を教えることができました。このような出来事から、わからないことは徹底的にわかるまで教えること、生徒に一步一步焦らずに教えていくことが大切であると感じたので、私の中で心がけるようにしています。

他にも、学校のように教えることを重視する学習を行うというよりも、生徒に興味をもってもらう形態をとっていくことを心がけています。例えば地理であれば、身近なものに関連させて学習を進めていったり、地球儀で国を確認しながら進めていったりすることで生徒に興味をもたせます。なぜ、興味をもってもらうことに重点をおくのかというと、のびのび楽習塾の先



生が学生だからです。学生よりも学校の先生の方が、教えるのがうまいのは当たり前です。したがってのびのび学習塾では、学校の学習の補助を行いながらも、興味をもって勉強に向かってくれるようにすることが一番大切であると考え、心がけることにしました。

このように、私はのびのび学習塾に参加することで、たくさんのことを得ることが出来ました。これからは生徒やスタッフとたくさんの思い出を作りながら、先生としてだけでなく、人としても成長して行ければ良いと思います。

「のびのび学習塾」を通して感じること

経済学科 3年 佐藤雄大

私がのびのび学習塾でボランティア活動を始めたのは、今年の4月からです。したがって、のびのび学習塾の活動には数えるほどしか参加できていません。そのため、ボランティア活動を通じて得ている経験は、私にとって非常に新鮮です。当然のことですが、勉強を教えることは容易ではなく、もどかしさを感じます。私自身一度勉強をしている内容であっても、「自分自身で理解すること」と「生徒に説明すること」には大きな隔たりが存在することを実感しています。そのため、生徒に伝えることを意識しています。噛み砕いた説明や興味を惹く豆知識など、生徒が自発的に勉強をできるようなサポートが望ましいと考え、日頃から意識しています。その点で、のびのび学習塾を長く経験している先輩の活動は非常に参考になり、感服しています。自らの現状を先輩方と照らし合わせ、成長できるよう更なる努力が求められると感じています。

「塾」と言えども、勉強のみを教えるわけではありません。レクリエーションや日記を書くこと、休憩時間の雑談などを通して生徒との円滑なコミュニケーションを取ることが求められます。私たち大学生の日常生活において、中学生と話す機会はあまりありません。そのため、生徒から会話を引き出せず、素気無いコミュニケーションになってしまうことがしばしば生じています。世代の異なる生徒と円滑なコミュニケーションを図るために、その間に生じる「ギャップ」を埋める工夫が必要であると強く感じています。つまり、生徒から会話を引き出すことのできる「良い聴き手」になることで、円滑なコミュニケーションを取ることができると考えています。のびのび学習塾での活動を通して、生徒との間に生じる「ギャップ」を埋め、「良い聴き手」となることを目標とし、ボランティア活動を行いたいです。

「のびのび」での活動で感じた事

工学部 3年 平川将也

私がのびのび学習塾に参加をしたのは今年の2月末からです。3ヶ月近くたち、やっと活動に慣れてきたかなと思います。

のびのび学習塾は外国にルーツがある子どもたちの学習支援をしています。私は子どもたちと接するという機会は一度もなく、日本語があまり得意ではない子どもたちもいる中でわかりやすい授業をできるかどうかとても不安がありました。初めて活動に参加した時はとても緊張しましたが、子どもたちが新しい先生だ！と言って話してきたので、緊張がほぐれて、すぐ打ち解ける事ができ、今ではとても楽しく活動することができています。

短い期間ですが、のびのびの活動を行ってきて感じた事は、のびのびはただ勉強をするだけという場では無いという事です、もちろん第一の目的は勉強をすることですが、それと同じぐらい重要なのが、授業以外の所でおやつタイム等を利用して様々な話をしながらコミュニケーションを取ることであると思います。のびのびに来る子達はまだ日本語が得意でない生徒もいます。したがって、学校等でも少し他の子とコミュニケーションがとりづらい子もいます。土曜日という学校の休みの日の朝から大学まで来てくれるというのは、勉強をするためだけでなく、自分たち学生と話をしたいという側面もあると思うので、おやつや時間やレク等をしていくことで、その気持ちも満たしてあげること大事なのびのびの活動の意義なのではないかなと思います。

のびのびでは学ぶ事がたくさんあります。子どもとの接し方、様々な問題への対応等、どうすれば子供達が楽しく学習できるか、どうすれば問題が解決に向かうかを考えていくということは、将来教師として教育現場に出て行った際の良い経験になると思います。残念ながら自分は大学の授業の関係で一コマののびのびで授業をして活動を抜けるという状態で、活動をすべて行う事ができていないので、子どもたちと接する時間がとても短いのですが、「授業をひとつひとつ丁寧に行っていく」、「短い時間でもしっかりとコミュニケーションを取る」ということを目標にして活動をしていきたいと思っています。

「のびのび楽習塾」で学んだこと

法学部 3年 崎井優太

私がこののびのび楽習塾に参加して早いもので一月が経過しました。初めての学習ボランティアで、1回目の活動の時には同じ子どもの担当になった学生に助けられながら必死に勉強をする内容を考えたり、学習の進め方を考えたりしました。

その中で、学校外であるのびのび楽習塾の活動を通して学んだことが2つあります。

まず、コミュニケーションが子どもとの学習において何よりも大事だということです。外国語を母国語としている子どもも多くいるため、普段私たちが使っている言葉のニュアンスが通じない、ということがたまにあります。そのような時には、ホワイトボードを使って絵で説明をしたり、辞書を開いて一緒に意味を探してみたりするのですが、そのたびに言語やボディランゲージなどを使った「総合的なコミュニケーション」とも呼べる能力の重要性を考えさせられます。

私は、生まれてから海外に出たこともなく、外国籍の友人や、外国の方と会話する機会にも恵まれたことがなかったため、最初はこのコミュニケーションがお世辞にもうまくいかず、活動中にどうしたらいいかわからなくなってしまう事がありました。今はある程度経験もあり、確実にとはいきませんが、コミュニケーションが取れるようになりましたが、やはりまだまだ実力不足に悩まされることが多いです。

次に、活動において学校のように問題集ばかりする授業ではなく、個々にあった活動をする事の難しさと、楽しさを学びました。

のびのび楽習塾にはまだあまり日本語がうまく理解できずにいる子どもも多く、授業内容の理解が、授業のスピードに追いつかない子供もいます。だから、その理解内容に応じて活動を行うわけですが、個々の進展度ごとにやはり教え方を変えるのは手間がかかりますし、何より予定通りに進みにくいという難点もあります。しかし、その分私が教えたいと思った事、理解してほしい内容を子どもたちが楽しそうに勉強をしてくれていると、とてもやりがいを感じ次の学習活動の元気の素にもなります。

私はまだ日が浅く、子どもたちとの関係も浅いですが、より楽しい学習活動をするように心がけ、しっかりと子どもたちのサポートをして関係性を築いていきたいと思います。

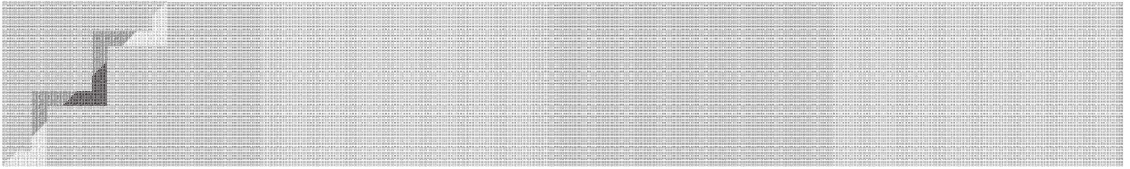
学校ボランティア、はじめました

外国語学部 4年 伊奈沙織

私は、今年の4月よりののびのび楽習塾に参加させていただいています。いよいよ教育実習を目前に控え、そして早ければあと一年もしないうちに現場に立つことになるので、少しでも子どもたちの実態を知っておきたいと思い、参加を決意しました。最初は受け入れてもらえるか不安でしたが、子どもたちも保護者の方もスタッフのみなさんも明るく親切に接してくださり、とても楽しく参加させていただいています。

初日から様々な課題を発見することができ、驚きました。外国につながる子どもたちだからこ抱える文化や言語的な問題や、思春期の子どもとの接し方、スローラーナーの子どもとの授業のしかたなど、のびのびだけでなく、現場でもありそうな課題ばかりです。課題は自分で見つけることももちろんありますが、活動前後のミーティングで他のスタッフが見つけたことをシェアしてもらえ、自分ならどう対応するかを毎回考えます。自分では気づけなさそうな些細なことまで報告があるので、見習おうという気持ちになります。

今後の目標は、もっと積極的に子どもたちに話しかけること、子どもの学習ペースをよく見ること、全体を見られる余裕をもつことです。まず、積極的に子どもたちに話しかけるという点では、もっと教養を蓄えて様々な話ができるようにしたいです。「授業はどんな感じなの?」「テストどうだった?」など簡単に学校の様子を聞くことはしていますが、なかなかそこから話が発展しません。他の話をしようと思って、その子どもが興味のあるようなことを切り出しましたが、自分の知識があまりなく、「よくわからないんだよね…」と会話を濁して終わってしまったこともありました。ですから、互いに楽しく話ができるよう、引き出しの中身を豊富にして臨みます。次に、子どもの学習ペースをよく見るという点では、善悪の判断をしつかりし、学習計画をこなせるようにしたいです。まだ子どもに遠慮してしまうところがあり、授業に関係のないおしゃべりで盛り上がってしまうことがあります。おしゃべりも楽しみつつ、勉強に来ているという自覚を持たせ、ダメなことはダメと言えるようになります。最後に、全体を見られる余裕をもつことです。私はまだ自分のことで精いっぱいになっていますが、ベテランのスタッフの方たちはいつも全体のことを考えて行動しているようです。一刻も早く活動に慣れ、余裕を持って行動したいです。始めたばかりで残りわずかなのびのびスタッフ生活となりますが、数か月後の自分が自信をもって教壇に立てるよう、以上のことに努めていきます。



「のびのび」で大切にしていること

工学部 4年 西尾真由子

私は大学構内で行っているのびのび楽習塾と、JIN-KANA学習塾のボランティア活動に参加しています。のびのび楽習塾は、週に1回、外国につながる小・中学生の学習支援をするボランティア活動です。文字通り、「日本語で勉強することが楽しくなるように支援する」ことが最大の目的です。レクリエーションを企画するなど、子どもたち同士の触れ合いも大切にしています。また、教科以外に子どもたちには授業が終わった後にテーマに沿った日記を書いてもらい、みんなの前で発表してもらっています。これは、子どもたちが自分の気持ちを日本語で表現できるようになるための大切な支援の1つです。一方、JIN-KANA学習塾では、週に2回、経済的に困難な家庭および外国につながる中学3年生を対象に「高校入試に向けての学習支援」をする活動をしています。

2つの活動は目的は違いますが、支援方法は似ていて、個別指導で1時間目（50分）—おやつ休憩—2時間目（50分）の流れで行っています。2時間目が終了すると、のびのびでは先ほど述べた日記発表の時間、JIN-KANAでは簡単に今日のコメントを書いてもらいます。

今年度は、のびのびに参加している生徒の半数近くがJIN-KANAにも参加するようになりました。そのため、私は週3回同じ子を支援する機会が増えました。週3回子どもたちと会うことによって、コミュニケーションがよく取れるようになりました。その結果、のびのびにおいて、子ども同士のつながりを支援しやすくなりました。今では、のびのびのおやつ時間に、今まで話すことのなかった子ども同士がおしゃべりする姿が見受けられるようになりました。

しかし、最近子どもたちが両塾を比較するようになってきました。私たち支援者側から見ると目的の違う活動ですが、子どもたちから見ると日記発表があるか、ないかの違いになっているようです。日記発表を嫌がり、中にはのびのびをさぼりがちになる子も出てきました。これでは、生徒たちが苦手としている日本語でのコミュニケーションの支援ができません。このことは、のびのび全体の大きな課題になっていますので、学生同士で解決策を模索しています。

また、私自身の課題として、のびのびのみの参加の子どもたちとの距離が少し離れたように感じています。のびのびとJIN-KANAのメリハリをつけて、子どもたちと接していきたいと思います。

意識すること

経済学部 4年 津軽範行

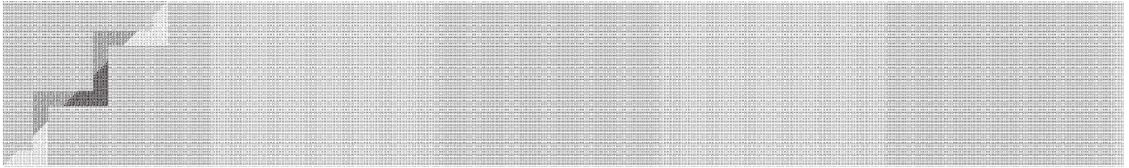
私は、字を書く時にペンの持ち方を意識することがほとんどありませんでした。しかし、このことについて考えるきっかけは、のびのび楽習塾に来ている子どもの親との話すことと書くことについての会話でした。その子どもの親は、日本語を話すことよりも日本語で文を書くことの方が難しいと言っていました。また、字を書く時には、ペンの持ち方を意識するようにして書くようにしているそうです。それは、字を丁寧かつ早く書けるようにするという理由からでした。丁寧に字を書いている時はペンの持ち方がしっかりとしており、その経験から、子どもにはペンの持ち方が良くない時には注意をするそうです。

この話から、意識することの大切さを再認識しました。また、無意識になった時には、何かを見落とす可能性があるだけでなく、目的意識が薄れてしまうことも考えられるので、改めて活動の目的を明確にして取り組もうと思いました。

その他にも、現在では技術が発達し、手紙を書く作業よりも携帯電話やパソコンでメールを送る作業の方が多くなることで、「心」が見えにくくなり、人と人とのつながりが薄れてきているのではないかとといったことも話題になりました。このことから、会話でのコミュニケーションにより、学生と子どもだけでなく、子ども同士のつながりを作ることが、より楽しく、より良い場になるのではないかと以前よりも思うようになりました。

子どもの親と会話をしたことによって多くのことを学ぶことができました。学んだことを活かして、のびのび楽習塾という場にいることが少しでも子どもたちにとって有意義な時間となるようにしたいです。





私にできること

外国語学部 4年 伊藤伎恵

のびのび楽習塾の活動を始めて1年が過ぎました。私は今期、運営係として裏方の仕事に多く取り組んでいますが、子どもたちと直接関わる活動にはほとんど参加できていません。しかし、参加した数少ない活動の中でも、私にとって成長するきっかけとなったことがあります。

それは、普段何気なく使っている日本語を説明することの難しさを実感したことでした。子どもから「平行とはどういうこと?」と聞かれた時に、私は子どもにもわかるように説明することができませんでした。日本の文化の中で育った生徒ならほとんど質問しないようなことを尋ねられたからです。「平行」という言葉は、日本の文化の中で育った子どもなら、一度意味を習えば再びそれらの言葉と出会った時、多くは漢字の形などから意味を推測することができます。しかし、彼らにとっては一度意味を習っても推測するだけではわかりません。それは、私たちが違う言語を学ぶ時と同じことです。繰り返し繰り返し時間をかけて自分のものにしていかなければなりません。そのため、この時自分自身が、現在よりもっと外国につながる子どもの視点に立って教えなければならないこと、そして知識不足であったことを感じました。それから、人に意味を明確に説明できないような四字熟語やことわざに出会った時、すぐに意味を確認したり、実際に会話を通して使うようにしたりすることで意味を頭に入れるようにしました。その成果はまだ出ていませんが、活動に継続して参加できるような時間的な余裕を早く作り、自らが子どもと同じように学ぶ姿勢を見せることで、生徒が学びや気づきを発見できるような機会を与えていくことが私にできる役割でもあると今は思っています。

このように、外国につながる子どもたちの特徴や、今後自分自身が生徒のために取り組んでいかなければならない課題に気づくことができたことが、私にとって成長するきっかけとなっています。子どもにとっていかに実り多い授業にすることばかりに集中してしまいがちでしたが、それ以前に、普段何気なく使っている日本語をわかりやすく教えるにはどうすれば良いかを、活動を通して考え続けていきたいと思っています。

より良い活動を目指して

外国語学研究科 1年 佐藤陽子

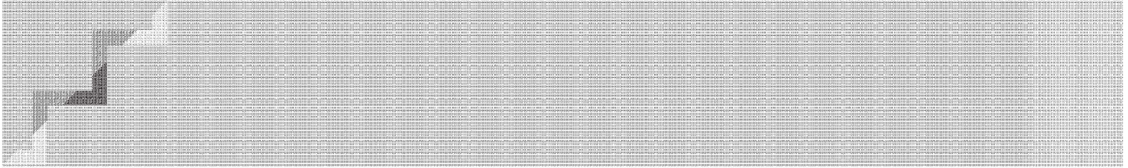
3月に中学3年生が5名卒業し、現在ののびのび楽習塾には子ども8名が通っています。支援側のメンバーも、学生だけでなく教員経験のある方々のサポートも加わり、これまでとは違った雰囲気の中で活動しています。のびのび楽習塾は我々学生が主体となって運営しているため、毎回の活動の中でミーティングを設け、どのように工夫すればより良い活動にできるのか話し合っています。

今年度から大きく変化した取り組みとして、学習計画が挙げられます。これまでの学習計画は、教科と単元、教材を決めて計画表に記入するだけで、1コマ50分間をどのように使って学習を進めるかというのは担当者本人しか分からないといった状態でした。しかし、これまでの計画表のスタイルを変え、学習指導案のように「導入・展開・まとめ」の三段階の計画や、学習後の振り返りの視点を変えたことで、急速担当者が変わっても対応できるようになりましたし、何よりも担当者自身の学習に対する意識が大きく変わったように思います。

また、教育実習や就職活動でメンバーが抜けてしまうことから、一人ひとり係分担していたものをグループ制にして、活動にかかわる仕事をローテーションするという方法に変更しました。メンバーの変動があっても継続して活動を続けるためには、どの仕事も全員が経験し、「その人がいないとこの仕事ができない」というような状態を作らないようにするべきだ、と考えたからです。一回一回の学習活動を充実させることも我々の役目ですが、この活動自体を継続し向上させることも、のびのびに通う子どもたちのために我々がすべきことだと思います。

昨年度よりも子ども的人数が減り、子ども一人に対して学生が二人つくことも珍しくはありません。支援する内容も充実したのになっていると感じています。より良い活動を目指して、今後もメンバー全員で協力し合って取り組んでいきたいと思っています。





「ふり返り」を大切に

外国語学研究科 2年 鈴木恵介

私が「のびのび楽習塾」に参加するようになってから約1年と3か月が経ちました。このボランティア活動が続けていく中で様々な出会いや発見がありました。今年度は学びの幅を広げ、深めていきたいと思っています。

具体的に言うと、例えば、今までほとんど話す機会がなかった子どもの授業を担当してみたいです。「のびのび楽習塾」では、基本的に子どもと1対1で授業を行っています。毎回担当する子どもが決まってしまうと、ほかの子どもとは接する機会が2時間ある授業の間の休憩時間だけになってしまいます。私はこの時間に子どもと触れあう機会を持とうと思っておりましたが、どうしても時間が限られてしまうので、今年度はできるだけいろいろな子どもの授業を担当できるようにしたいと思います。

しかし、それは、私一人で決められることではありません。ボランティアを行う学生が教えることのできる科目や子どもが勉強したい科目に左右されてしまいます。そこで、私の今年度の一番の目標は「ふり返り」により時間をかけ、学びを深めることにしたいと思います。「のびのび楽習塾」では、毎回活動の終わりに「ふり返り」を行い、意見の共有を行っていますし、各々が個人的な「ふり返り」である「学校ボランティア活動日誌」を毎週書いています。しかし、私は今まで日誌を書くのにあまり時間を掛けていませんでしたし、自分が書いた日誌を読み返すこともほとんどありませんでした。「ふり返り」のための日誌もしっかりと考えた内容でなければ効果的でないと思いますし、せっかく日誌を書いても、それを読み返さなければ、自分に必要なことに気づくこともできないように思います。私は個人的な「ふり返り」である「学校ボランティア活動日誌」を書くための時間を増やし、それを自身の成長につなげていくことを、今年度の目標にしたいと思います。

私は現在大学院の外国語学研究科の修士2年であり、今年度で修了する予定なので、おそらく「のびのび楽習塾」にいたることができるのは今年度が最後になると思います。この1年が悔いのないものになるように、多くのことを学んでいきたいと思っています。

成長し続けること

教職課程支援室スタッフ 中島慎介

私が「のびのび楽習塾」に入ってから1年が過ぎました。この間そこに通い続けた中学3年生5名が卒業し、現在高校生活を楽しく過ごしています。「のびのび楽習塾」に参加している生徒たちの様子を見ると、生徒たちが日々の学習に励み、学習活動や部活動でますます成長し続けていることに共感します。私は今年度の目標として子どもたちの様子をしっかりと観察し、今までの経験を生かして自分の指導スタイルを完成させることを決めました。子どもたちが学習している様子を聞き、学校で分からなかった学習内容を中心に、様々な教材を使って細かに教えていきたいと考えています。

私が驚いたのは、昨年度卒業した生徒が今でも「のびのび楽習塾」に通い続けていることです。その生徒は高校へ進学しても、苦手な教科である国語と社会（歴史的分野）を中心に先生から教わりたいと強く希望しています。その生徒の苦手教科を克服しようとするやる気と根気が伝わってきました。これにより私は生徒に、国語と社会（特に日本史）を教えることになりました。

私が生徒に日本史を教えているとき、生徒から「プリントを見ても、どこに言葉を入れればよいのか分からない」と声をかけられました。そのプリントには、漢字の振り仮名が一切ありませんでした。読めないということは、大きな悩みの種です。私は分からない漢字や歴史用語を電子辞書で調べてみました。検索した結果を生徒に伝えると、「なるほどね。分かった。」と返事が返ってきました。私はその返事を聞いて安心しました。社会科を教える際に資料集や人物写真などの教材を使い、分かりやすく生徒たちに伝えることが大切であることを、生徒との学習機会を通して感じました。

これからも子どもたちの様子をより丁寧に観察し、学習活動を通してお互いに成長し続けたいと思います。



発行日：2014年7月23日（水）

発行場所：神大ユースサポートプロジェクト（JYSP）

TEL：045-481-5661(内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL: <http://www.kanagawa-u.ac.jp/>

[teacher_training_course/jysp/](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/)